

酪農・豆知識 第 109 号

畜産統計（平成28年2月1日現在，乳用牛）

農林水産省は7月5日に「畜産統計」(2016年2月1日現在)を公表しました。飼養戸数と飼養頭数を中心に、その概要を紹介します。

詳細は

http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/tikusan/pdf/tikusan_16_1.pdf

をご覧ください。

1. 飼養戸数

乳用牛の飼養戸数は1万7,000戸で、廃業等により前年に比べ700戸(4.0%)減少しています。この傾向は平成24年から変わっていませんが、減少戸数は前年の900戸、一昨年の800戸を下回り、4年ぶりに前年の減少戸数を下回っています。ただし、減少率は直近の3年連続で「4%」台を記録しています。

飼養戸数が多い都道府県順に見ると北海道が6,490戸で前年比2.8%減(前年3.2%減)、岩手が1,000戸で4.8%減(前年7.9%減)とそれぞれ減少率を縮小し1位、2位の座を維持し

ており、前年に続き飼養戸数「1,000戸」を超えるのは、この2道県のみとなりました。以下3位も前年と変わらず栃木の785戸・0.6%減(前年4.5%減)、4位は千葉の720戸・3.9%減(前年6.4%減)、5位は熊本で592戸・6.2%減(前年0.9%減)となり、熊本では「600戸」を割っています。本年4月の熊本地震の影響が、次年度の個数に影響することが考えられます。

なお都府県の飼養戸数合計は1万510戸で500戸(4.5%)減と、前年の700戸(6.0%)減から減少戸数・率ともに下回っていますが、全国に占める割合は61.8%で前年から0.3ポイント低下しています。

2. 成畜（満2歳以上の牛）の飼養戸数

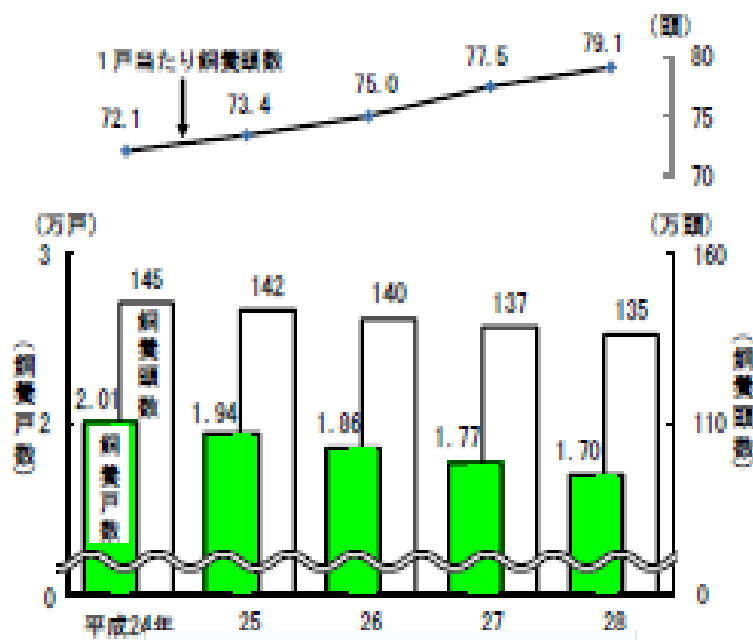


図1 乳用牛の飼養戸数・頭数の推移

成畜（満2歳以上の牛）の飼養戸数は1万6,300戸で、前年に比べ600戸（3.6%）減少しました。これを飼養頭数規模別にみると、100頭以上の階層で増加、80～99頭の階層は前年並みですが、それ以外の階層で減少しています。

また、成畜（満2歳以上の牛）飼養頭数は129万8,000頭で、前年に比べ2万7,000頭（2.0%）減少した。これを飼養頭数規模別にみると、100頭以上の階層で増加したが、それ以外の階層で減少した。なお、飼養頭数規模別の飼養頭数割合は、100頭以上の階層が約4割を占めています。

3. 飼養頭数

飼養頭数は134万5,000頭で、前年に比べ2万6,000頭（1.9%）減少しました。この傾向は平成24年から変わっていません。

飼養頭数の内訳をみると、経産牛は87万1,000頭で前年に比べ1,300頭（0.1%）増加し、未經産牛は47万4,100頭で前年に比べ2万7,500頭（5.5%）減少しています。

4. 1戸当たり飼養頭数

1戸当たり飼養頭数は79.1頭で、前年に比べ1.6頭増加しました。この傾向は平成24年から変わっていません。

都道府県別では、前年度に続き三重が132.9頭でトップを維持、前年度比で11.2頭（9.2%）増。三重の飼養戸数は48戸で前年度比9.4%減、飼養頭数は6,380頭で1.1%減でした。2位の北海道は121.1頭で2.5頭（2.1%）増と、前年度3.3頭（2.9%）増から伸び率を縮小し、三重との差はやや拡大した。都府県平均は53.3頭で0.7頭（1.3%）増と、前年度の1.4頭（2.7%）増を下回ったものの、初めて「50頭」台に乗せた平成24年度（25年2月1日現在）から4年連続で50頭を超えています。

なお1戸当たり50頭以上の飼養頭数となったのは27道府県で、前年度の25都府県から香川52.1頭（前年度49.4頭）、滋賀51.4頭（前年度48.8頭）の2県が加わった。

5. 全国農業地域別の比較

飼養戸数及び飼養頭数を全国農業地域別にみると、ともに前年に比べ全ての地域で減少していますが、地域別の飼養頭数割合は、北海道が全国の約6割を占めています。

6. 生乳生産量

27年度の生乳生産量は740万7,326tで前年度に比べ1.0%増と、前年度の1.6%減、前々年度1.0%減から3年ぶりに増加に転じました。

酪農家戸数の減少幅は縮小しましたが、戸数減に伴う飼養頭数の減少に歯止めはかかっておらず、全国で進む規模拡大と1頭当たりの生乳生産能力の向上が国内の生乳生産を支える構図が続いています。すなわち、規模拡大と高泌乳化が進んでいます。

